

緑育会通信 第3号

緑育会事務局
(プロジェクト推進室)
Tel: 03(3961)0084
Fax: 03(3962)7135
E-mail: ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

アドバイスコーナー

家庭科教育と人間形成 家庭科教育(家政教育社 昭和59年5月号より)
河村 フジ子名誉教授(元家政学部長 栄養学科教授)



「緑育会」発展、拡充についての私見

緑窓教育会 副会長 齋藤 禮子(渡辺学園東京家政大学緑窓会 会長)



「緑育会」が平成18年10月にスタートして2年目に入りました。平成19年4月15日の愛知・岐阜・佐賀県を皮切りに12月2日の鳥取県で18県の緑窓会支部総会がありました。どの支部に行きましても、他の専門職種に比べて教職の現職者や元教員の方が多く出席されています。

現職者のお話を伺っておりますと、“受験の主要科目に重点がおかれ家庭科は疎かにされやすいので、家庭科の教員は頑張らなければならないのよ”と話されていたことが心に残りました。

埼玉県立久喜北陽高等学校長の森田松子姉が、緑育会通信創刊号に示してありますように、「家庭基礎」2単位、「家庭総合」4単位及び「生活技術」4単位の中から1科目を選択することとなっている。ところが全国的に2単位履修が多くなる傾向にあると述べていることから家庭科の教員のご苦労のほどが察しられます。

こうした現状を踏まえ緑育会会員諸姉の互助、団結に私見をのべてみます。独断な点がありましたら何卒お許しください。

東京家政大学では、緑育会会員との定期的会合の場設定、免許更新制度の導入に対する全学的対策、教職専門職大学院開設と会員との接続問題対策に積極的な始動。こうした問題を認識するためにも内政的に先進国である北欧諸国のうちフィンランド教育情勢に関する青木幸子先生のご講演など強く希望いたします。

緑育会は大学、短大、学部、学科、科を問わず卒業生の中で教職関係者が対象であります。東京近郊以外の方はなかなか板橋校舎まで足を運ぶのは不可能かと思えます。そこで各支部で緑育会を立ち上げ、その中の代表が板橋校舎と連絡をとり、情報を支部会員に伝達したり、各支部が独自に勉強会を設けるなど積極的行動が今必要かと考えます。

家庭科の教員が全国的に減少している中で、本学の卒業生が生き残るためには以前のように、先輩が後輩を育て、後輩が次の世代の後輩を教員へ導くような組織作りの実現を要望いたします。

お友達に「緑育会」へ入会されるようお誘いいたしますようお願いいたします。

最後に、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

報告 1

平成19年度文部科学省による大学教育改革支援プログラム「専門職大学院等教育推進プログラム」が採択

プログラム名：女性中核教員養成女子大学連合モデル(5女子大学連合)

内容：現職の女性教員を対象に、5女子大学(東京家政大学・日本女子大学・大妻女子大学・実践女子大学・昭和女子大学)が主体となり、男女共同参画社会の実現という理念の下、教育委員会等デマンドサイドの意向を反映し、学校経営の中核を担う女性教員の養成に向けた研修プログラムの開発を目的としています。参加大学の施設をサテライト的に活用し、e-Learningを組み合わせることで、現職教員が研修に参加する際の障害となる時間的、距離的制約を克服しようとする点に特色があります。期間は平成19年度から平成20年度。

平成20年7月19日(土)、本学主催の「記念シンポジウム」を行います。皆様のご参加、お待ちしております。

なお、詳細については、6ページをご覧ください。

【目次】

緑育会よせて 齋藤 禮子(渡辺学園東京家政大学緑窓会 会長)	1
報告1 平成19年度文部科学省「専門職大学院等教育推進プログラム」が採択	1
アドバイスコーナー 家庭科教育と人間形成 河村フジ子名誉教授	2
教材情報 フリルで遊ぶ 奥和代先生	4
女性と仕事 滝沢貴代(平成2年卒 服飾美術学科)	6
記念シンポジウム開催のお知らせ	6
教育時流 教職教養科 青木幸子先生	7
報告2 松井正子名誉教授に感謝状を授与	7
ご意見コーナー 大村芳寿枝(昭和22年卒 元兵庫大学 教員)	8

1. 家庭科教育に魅せられて

物質より人間を相手にする教職にひかれて静岡県立の公立高校に赴任したのは、30年も前のことです。

それまで教員養成校であったものが新制大学となって間がないだけに、新たに着任された農学部出身の教官たちの期待にこたえるために、友人たちはほとんど会社等の研究職に就きました。それらの人たちから見れば、文字通りの“ミヤコ落ち”ということになります。

こうして希望に燃えて着任した職場で初めて知ったこと、それは家庭科教員の“地位”の低さと教科書通りにする授業のおもしろくなさでした。そこで2年目から始めたのが授業に実験を取り入れるという試みでした。

インドフェノール液で当地の産物であるみかんとりんご、大根、きゅうり、……とビタミンC量を比較したり、牛乳やコーヒー牛乳(当時はそう呼んでおり、生徒はよく飲んでいた)に酢を加えてカゼインを固め、紙せんの表示の意味とともに栄養分の違いを比較し、コーヒー牛乳は脱脂乳を水増しして色と香りや人工甘味料を加えたものののに牛乳と同じ価格であるとは……と、私自身も夢中になったものでした。更に「自由研究」をさせ、生徒の

2. 教師も楽しい実験学習の家庭科特有の成果

大学の食物学科での実験は、正確で再現性のあるデータを出すこと(当然とは言え)に追われ、その過程や方法を検討する楽しさなどを味わう余裕はなく、緊張の連続でした。それに比べて家庭科で取り上げる実験学習は何と楽しく、児童・生徒とともに胸ときめかせるのが多いことでしょう。それは、まず題材や方法を自分で見付け(当時は参考にするものは皆無であった)、その結果を予想して臨むことと、結果はおおよそその傾向をとらえればよいという気楽さと、生徒の思わぬ質問や反応でまた新たな題材が見付かる等、教師の主体性を存分に発揮できるからです。教師自身が楽しい授業であれば、児童・生徒も楽しく学習でき、実力となって定着するはずです。

例えば、先にも触れたビタミンCに関する実験は、始めにビタミンCの性質を知るための実験をさせるか、やってみせた後、材料・方法を自由にさせると効果的な学習が展開されます。古いお茶と新茶、紅茶と緑茶、湯を注いで1分と3分、また1回目と2回目……のお茶に出てくるビタミンC量の違いや、野菜をゆでると本当にビタミンCは水中に出てくる、にんじんにはアスコルビナーゼがあるので生のにんじん汁より加熱のにんじん汁の方に多くビタミンCが残る……等様々な結果に驚き、更に新しい試みに挑戦し、時間のたつのを忘れてしまいます。

その結果、ビタミンCの性質や野菜・果物のとり方・扱い方等が言葉で説明するよりよく分かることはもちろんですが、生徒がまず主体性を持って計画し、協力して実験し、その結果に驚いたり、満足し、なぜか、どうすればよいかを思考し、実生活に結び付けてノートをまとめるその過程こそ、一人一人の個性を伸ばす人間形成につながると思えたのは、こうした授業を始めて数年を経てからで

反応を見てしみじみと思ったことは、家庭科教育はその目標、つまり結果自体が実生活に役立つことに意義があるが、その過程もまた大切なものであるということです。

3年前から立教大学の文学部教育学科で小学校の家庭教材研究を担当することになり、児童向きの実験を講義室にビーカーや水を持ち込んでやっています。そこで学生たちが生き生きと創意工夫をこらし、実に楽しい雰囲気の中で実験に取り組む姿を見て、低学年の家庭科は結果よりむしろその過程が大切で、学力イコール暗記力で実験が終わると忘れ去られる学習体制の中で、思考力、創造力、応用力、実践力、計画力、積極性……といった、現在はもちろん、未来に対処できる実力を養い、協調性や人間愛を目覚めさせる、つまり人間形成に深くかかわりを持つ家庭科教育こそ荒廃した教育を本来の姿に立て直す“光”であると痛感します。

以下、現在までに私が実践し、機会ある度に主張してきた実験・実習・調査を取り入れた家庭科教育と人間形成とのかかわりについて、具体例を挙げて述べることにします。

した。以後、牛乳と乳飲料の比較、でんぷんの分解、生クリームからバターを作る、豆腐を作る、野菜や果物の色について、更にパンやうどんだけ食べているとどうなるか、生徒の昼食が菓子パンだけという実態を見て、白ネズミによる動物実験を取り上げて毎日の食事のとり方について食卓につながる授業を……と、私自身も意欲的に取り組むことができました。(これらの実践記録の詳細は、本誌48年度の教材研究に紹介した。)

大学での小学校教材研究では、このビタミンCのほか、各自が種々の条件を設定してゆで卵を作って持ち寄り(実習施設がないので、卵白・卵黄の状態を観察し、その原因を考え、授業ではどの方法でどのような注意をし、その結果をどうまとめるかについて考察したり、下着に適する材質や洗濯について、どんな実験をすると効果的かを見付けさせるために、学生に種々の方法で汚した布や材質・織り方・厚みの異なる布を持参させ、方法もビーカーに入れた水の中に落とす、スポイトで布の上に落とす、試験管に水を入れ布でその口をおおってさかさまにし、吸水速度を見る等、自由にさせています。その結果、家庭科が人間形成に役立ち、こんなに楽しいということを初めて知ったとか、今まで軽視していたことへの反省と教師自身の取り組み方の問題を指摘したレポートを見ることができ、特に男子学生の熱心な態度に満足しています。

実験学習によって児童・生徒が「初めて知った」「……意外だった」「よく分かった」「驚いた」という表現をし、教師も独創性を発揮して胸をはずませるとき、未来にも対処できる真の実力を生み出す授業が展開されると思えます。「実験をしたくても時間が、設備がない」とよく言われますが、時間がないから短い時間を実験で有効に使いた

教材情報

服飾美術学科 奥 和代先生

フリルで遊ぶ

既成のTシャツに自分独自のフリルを付けたり、ビーズや小花をあしらうだけで、Tシャツはそれを着ているあなた自身と共に生まれ変わり、あなたの個性を反映して一層輝きが増してきます。

ハンドメイドのプレスレット、フリルカラー、スカートにあしらったフリルは、世界で唯一つ、きっとあなたに女性の品格とアイデンティティをもたらしてくれるのではないのでしょうか。

使用する材料はすべて一般の手芸用品を取り扱っている店で購入することができます。

誰でもちょっとしたコツを学ぶだけで生活を楽しむことができます。以下詳細に説明いたしますので是非挑戦し、毎日の生活に楽しいアクセントを付けてみてください。

今回使用する「ちぢみ糸」と「シャーリングテープ」について解説いたします。

A. 「ちぢみ糸」

- 素材 (ポリエステル) ○カラー (白、赤、黒)
- 価格 (一卷¥380) ○長さ (300m)

●使用方法

普通のミシン糸のように使用する。スチームアイロンを浮かしてかけますと、糸自体が約30%収縮します。特に薄地素材に適します。手に入らない場合は普通のミシン糸でかけ、下糸を引きギャザーを入れてください。

Ⓜ：スチーム量と勢いが弱いと収縮率が低下します。

B. 「シャーリングテープ」

- 素材 (ポリエステル ココナロン) ○カラー (白、黒)
- 伸率 (2倍～3倍) ○価格 (¥340) ○長さ (2m)

●使用方法

テープを出来上がり寸法にカットし、生地に乗せ伸ばしながら左側からミシンをかけ次に右側をかけるとう簡単にシャーリングができる。

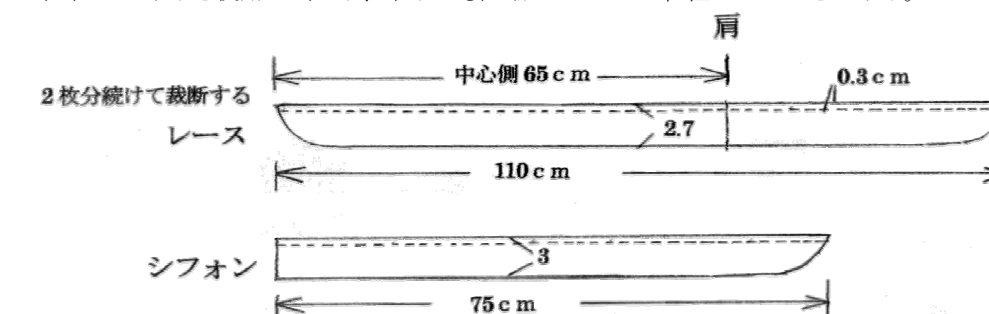
1. 応用作品 Tシャツ

- 【材料】○市販のTシャツ ○レース生地少々
○ポリエステルシフォン生地 (バイヤス 76cm)

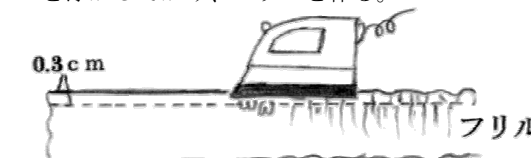
【作り方】

レース生地はほつれないので、横地の目でも良いが、シフォンは正バイヤスに裁断する。一直線に切るにはロールカッターと方眼定規を使用すると簡単に切れる。

- (1) ちぢみ糸を使用し(上糸、下糸とも) 端から0.3cm位置にミシンをかける。



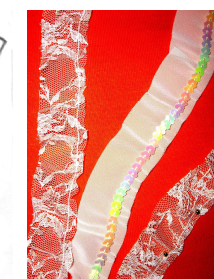
- (2) スチームアイロンを浮かしてかけ、フリルを作る。



- (3) Tシャツにフリルを途中までつけ、下はフラシにすると動きをだすことができます。肩に巻きバラをつける。



フリル利用の巻きバラ



部分拡大



完成

いし、教室でも工夫すれば充分できるものばかりです。要

3. 実習にもっと多くの目標を盛り込むこと

小学校の家庭科の授業を参観させていただく折に、名前の横にAとかCという評価がついている小物やカバーを見掛けます。児童にとってはできばえは悪くても、一生懸命作った世界に一つしかない自分の作品に、Cという記号しかない評価が返ってきたとき、どんな気持ちでしょうか。今後は物を作ることに興味を失ってしまうのではないかと、不器用で裁縫が苦手であった自分を思い出します。

そこで、大学での教材研究では、小学5年生で「小物作り」を通して児童に何をどのように教え、それを評価するかを考えさせるために、授業中に各自小物を作らせることにしました。小物にはどんなものがあるか、作りたいもの、作れそうなものは何かを考えて実際に作るものを持参させ、採寸・製図・裁断して縫い上げる、その過程で見せる学生の表情は児童と変わらず真剣で明るく、生き生きとして実によい雰囲気です。でき上がった作品に付けて提出するレポートには、形・配色・縫い方・飾り・ボタン等工夫した点、苦心した点、よくできた点が図入りで詳細に記してあり、久しぶりに針を持った興奮が伝わってきます。そしてこの教材は、でき上がったものも実生活に役立つが、それ以上に創造性・計画性・思考力、そして根気と完成させる喜びを児童に体験させることに意義があると、教師の立場より、赤ペンでこんな評価をもらった児童はまた何か作りたくなるだろうと思わせる、心温まる文が記してあります。

低学年の実習では、結果よりその過程で得るものを大切に指導すべきでしょう。そうすれば、望ましい人間形成と技術の向上とを併行して身に着けることになると思います。

調理実習は、児童・生徒に人気がありますが、単に作って食べることで終わらないようにしたいものです。栄養・

4. 調査・討論により今なすべきことを知る

家事の分担または協力を強調しても、ほとんどの児童・生徒は食べさせてもらい、住まわせてもらっている現状です。したがって、生活に役立つことを特質とする家庭科の学習を、今日の問題として受けとめさせるにはどうすればよいかということが、かつて高校に在職したときの悩みでした。

そこで実践したことは、生徒が自分の将来を見つめて、現在何をすべきかを考え、充実した日々を過ごすために、周囲に住む主婦の生活調査をさせました。方法は、アンケート用紙を配布するのではなく、直接会って話を聞くことにし、母・姉をはじめ先輩と数人を対象に専業主婦・共働き主婦の生き方、悩み、そして学生時代の反省等、生徒の心を揺さぶるものを期待して戸別訪問をさせ、教室でそれを発表し討議することにしました。更に女性労働史をも交えて取り上げたこともありました。その結果、歴史の流れの中の、ライフサイクルの中の、社会の一員としての現在の自分を見つめ、少なくともそれまでよりは目標を持って勉学に意欲的に取り組むようになったように思いました。受験・就職とすぐ目の前の目標ではなく、その先の長い人生を、この若いエネルギーがあり余る時期にしっかり見つめさせることが、家庭科教育ではできるわけです。

は、まず取り組んでみるのが大切だと思います。

食品の知識を食卓に直結させる食物学習の終点であれば、科学・文化・経済面を総括し実践する力をつけるとともに、協調性、計画性、責任感、労働そして人間愛を目覚めさせるよい学習の場となると思います。知識偏重の他教科、特に受験科目と言われる分野に、このような人間形成の場は期待できないでしょう。もっとも、このような目標を目指す授業を展開させるには、教師自身の強い信念に基づく指導性が要求されます。

親子どんぶり・すまし汁・あえものという家庭一般向き献立調理を例にすると、まず、栄養・嗜好・費用・能率の各面より1食分としての献立の検討を行い、次いで、米の糊化条件・好まれる飯のテクスチャー、卵の鮮度および熱凝固性、だし汁の取り方とその理由、青菜の色とあく……等、栄養・食品・調理理論および実験との関連を密にし、そのための作業手順や分担を考えて、最もおいしくて、美しい食物にして食卓に供する指導を盛り込むことです。各班の動きを見回したとき、ぼんやり他の人の仕事を見ている生徒がいなくて、流し・調理台が片付いていて、各自がきびきびと動いていることが学習効果の定着につながるようです。はさみやはしが上手に使えない、りんごの皮むきができない現代っ子のためにも、調理実習で手先を訓練させて、頭脳の退化を防ぎたいものです。また、材料の注文・分配・支払いや後片付けを当番制でさせることにより、食品の選択・価格・特性はもちろん、責任感、協調性等社会性を身に着けるよい機会ともなり得ます。

更に、家庭での食事作りに参加させるよう強調して、家族間の対話と理解を進める場、更に我が家の味・伝統の味を伝える場とし、食物が体の発育や健康のみならず心を豊かにすることをしっかり学び、家庭科を学ぶ意義を再認識させたいと願っています。

もう一つの試みは、これとは逆に、保育の授業で取り上げた子供の世界を見つめ、自分の現在までの生長過程を知る、そして将来、母親となるための心の準備をするというものです。赤ちゃんの入浴のさせ方やおむつのあて方は、母親学級や参考書または年長者から必要になったとき学べばよく、この時期には、幼児期に芽生える創造力、自由自在にめぐらせる発想の転換といった今の自分が見失っている人間のすばらしさに気付き、それを伸ばし育てるには……といった人間開発・人命尊重・保育の重要性を学ばせたいと思います。かつて、家庭一般の授業で切り紙や折り紙、そしてお手玉を作り、幼児の世界に再び踏み込んで、活発な討議をしたあとのときの生徒は、今どんな母親になり、どんな生き方をしているだろうと懐かしく思い出します。

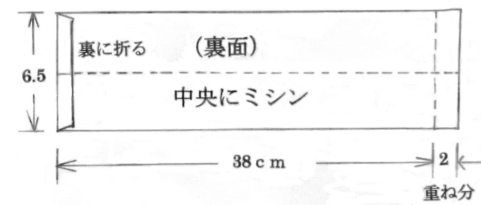
以上のように、家庭科の取り組み方は、将来家庭を持ったときのためにのみならず、現在の問題としてとらえ、その結果、実生活に役立ち、かつ人間形成に深く寄与することに着目し、家庭科教育が学校教育全体の原動力になるよう、教師自身、自信を持って、創造性豊かで応用力・思考力・総活力・系統性・社会性を発揮して臨んでほしいと思います。

2. 応用作品 ブレスレット

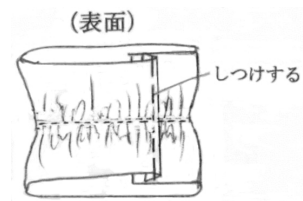
【材料】○ポリエステルシフォン(パイヤス 38cm) ○チュール少々 ○小花 4個

【作り方】

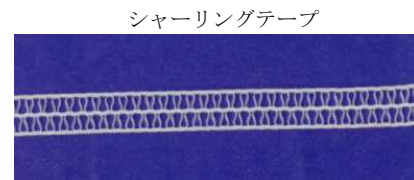
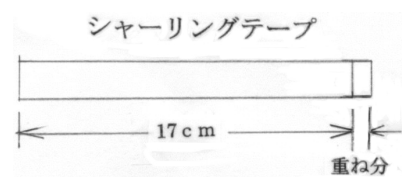
(1) シフォンとチュールを寸法に裁断し二枚重ね、中央をちぢみ糸でミシンをかける。
次に、スチームアイロンを使用しフリルを作る。



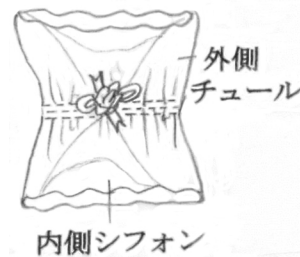
(2) フリルの片側を折り輪にします。
(3) 重ねた部分をしつけで押さえ、裏側にミシンをかける。



(4) 裏面に返し、シャーリングテープを中央に伸ばしてつける。



(5) 外側のチュールは4等分し、その位置の上下を折り小花で留める。重ね部分のしつけを取る。重ね部分は手首の内側にする。



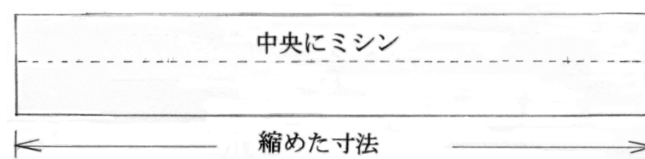
3. 応用作品 フリルカラー

Aレースのフリルカラー (長さ調節できる)

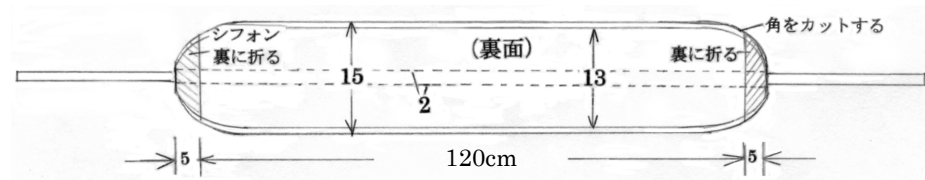
【材料】○ポリエステルシフォン (パイヤス 15幅 130cm内側) ○ラメ入りネット (13幅 130cm中側)
○レース(13幅 130cm外側) ○リボン(1.3幅 150cm)

【作り方】

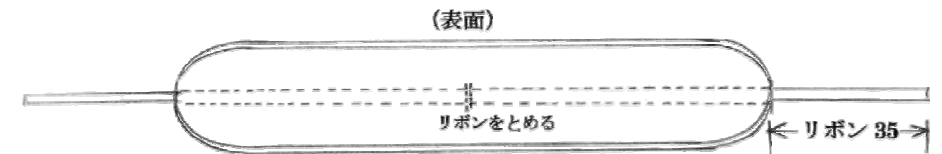
(1) シフォンはパイヤス裁ちにし、ちぢみ糸を使用し中央にミシンをかけ、スチームアイロンで縮める。
ラメ入りネット、レースはほつれ難いので地の目は自由。一枚ずつちぢみ糸でミシンをかけ、スチームアイロンで縮める。



(2) 三枚を重ね中央部分にリボンを通すためのミシンをかける。



(3) リボンを通す。リボンの長さの中央をミシンで留める。



(4) フリルを伸ばしたり、縮めたり長さを調節して楽しむ。



完成

女性と仕事

滝沢 貴代 (平成2年卒 服飾美術学科)

女性の社会進出に伴い、結婚・出産に対する意識が変化し、晩婚化・未婚化・非婚化も進んでいる。女性が正当な評価を得て、社会で活躍することは喜ばしいことであるが、それに比例して心身の疾患が増えている現実もある。私自身、いつの間にか体に負荷をかけていた。仕事の忙しさはもとより、精神的なストレスが一番の問題だった。それに気づいたのは仕事を辞めた生活を送ったからだ。辞めることに躊躇はあったが、今また元気に再就職できたのも、自分と向き合う時間をもてたからである。

大学卒業後、教員となり、ほぼ10年間、まさに“突っ走る”生活であった。教育の現場は即実践である。人生経験も人間的な厚みも、自分で密度の濃いものになるよう作り上げなければならない。専門的な授業だけでなく、保護者との対応、生活全般をめぐる悩み相談など、仕事の範囲は多種多様に及ぶ。充実はしていたが、潜在的なストレスも徐々にたまっていった。そんな中、同僚との結婚を機に退職することとなった。大好きな仕事を辞めることに未練はあったが、「ほっとしたい」という気持ちが一番強かった。

大学卒業後、初めて朝のラッシュのない生活が始まった。気持ちがゆるみ、深呼吸して生活を送れるようになると、いかに自分が張りつめて生活していたかに気づかされた。慢性になっていた頭痛・肩こり・便秘などが少しずつ緩和された。やりがいのある仕事ながら心身に過度の負担をかけていた、としみじみ感じた。その後、妊娠・出産を経て気持ちにも余裕が出てきて、また仕事が楽しくなってきた。心身のバランスが充足され、新たな目標をもって生活できるようになったことの表れであった。そこで専任の仕事を探してみたところ、公募での試験に運良く合格した。そして、教育の現場に復帰して1年が経とうとしている。現代は働く女性が当たり前になっているが、過度のストレス対策についてはまだ未知数である。デリケートな女性の体はさまざまな負荷を感じ、さまざまな症状のサインを送っているが、見過ごしてしまうケースも多い。私は突っ走った後の休憩を入れたことで、無事に子供も授かり、心身健康な状態でまた働くことができるようになったことに感謝し、退職も再就職も選択して良かったと思う毎日である。

記念シンポジウム開催のお知らせ

平成20年度大学改革推進事業専門職大学院等推進プログラム採択
一女性中核教員養成女子大学連合モデル

専門職大学院等教育推進プログラム採択記念シンポジウム

日時：平成20年7月19日(土) 13:00~17:00

場所：東京家政大学

●基調講演 講演者：樋口恵子(東京家政大学 名誉教授)

演題：「未定」 ※決定次第、ホームページにてご案内いたします。

●シンポジウム「スクールカウンセラーの明日」

コーディネーター 相馬誠一(東京家政大学 教授)

シンポジスト バーンズ亀山静子(NY州公認スクールサイコロジスト、東京家政大学大学院 講師、早稲田大学大学院 講師)

水庭桂子(熊谷市教育委員会指導主事 本学 OG)

伊藤美奈子(慶応義塾大学 教授)

三浦正江(東京家政大学 准教授)

教育時流

平成21年4月より教員免許更新制が導入されます

教職教養科 青木幸子

前号ではその検討内容とスケジュールについてご案内いたしました。目下、文部科学省では平成20年3月の教員免許更新制に係る教育職員免許法施行規則の改正に向けて準備を進めております。

そこで、今号では、文部科学省の資料に沿いながら旧免許状（平成21年3月31日までに授与された免許状）保持者に照準を当て、制度の要点をお知らせいたします。

1<目的>

その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能の修得を図り、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指しています。

2<免許状の有効期間>

有効期間は、免許状授与から10年後の年度末までです。例えば、平成22年3月25日に所要資格を得た免許状は、平成32年3月31日まで有効です。

旧免許状保持者は有効期間の定めがありません。しかし、更新講習の修了確認期限は文部科学省令（平成20年3月末日公布予定）の定めるところによります。**更新講習修了確認を受けないと免許状は効力を失います。**現段階では**最初の修了確認期限は平成23年3月31日**で、当該期限において満35歳、満45歳、満55歳の方が該当します。該当者はその期限までの2年間に必要な講習を受けなければなりません。

3<有効期間の更新：修了確認期限と延期>

旧免許状保持者は、修了確認期限前の2年間に大学などが開設する30時間の免許状更新講習を受講・修了し、免許管理者（教育委員会）に申請し、更新講習修了確認を受けます。止むを得ない事由がある場合には、相当の期間を定めて修了確認期限を延期することもできます。

4<更新講習の受講対象者と免除対象者>

現職教員、教員採用内定者、臨時任用（または非常勤）教員リストに登録されている者、過去に教員として勤務した経験のある者、その他文部科学省令で定める者。

ただし、優秀教員表彰者や教員を指導する立場にある者については、十分な知識技能を有していると認められるときには更新講習を受講せず（免除対象者）に免許状を更新することができます。

受講対象者であることの証明は、任命権者である教育委員会又は雇用者である国立大学法人及び学校法人の長が**在職証明書**や**採用内定証明書**を発行して行います。

5<講習の内容と時間数>

全教員が必ず受講する**①「教育の最新事情に関する事項」**（教職についての省察、子どもの変化についての理解、教育政策の動向についての理解、学校の内外での連携協力についての理解）が**12時間**、学校種や教科種等に応じた内容を対象とする**②「教科指導、生徒指導その他教育内容の充実に関する事項」**が**18時間**です。

6<講習の実施形態>

受講する教員の負担軽減や選択できる講習の幅を広げるため、実施形態は**長期休業期間中や土日での開講**を基本としつつ、**通信、放送、インターネット**による形態も認めています。受講に係る経費は個人負担です。

7<講習内容の修了認定>

更新講習が終了すると、文部科学大臣が告示する到達目標に掲げる内容について最低限の理解が得られているかどうかを**試験**により確認し、講習内容の修了を認定します。

8<いわゆるペーパーティーチャーについての配慮>

免許状授与後一度も教壇に立った経験がない者や、当面教員になる予定のない者は、**免許状更新講習を受講できません。有効期間が満了した免許状は失効します。**しかし、その後も教員への道が開ざされたわけではなく、**教員採用試験を受験することもできますし、講習を修了すれば免許状の再授与を受けることもできます。免許状が失効しても、取得した単位は無効になりません。**

報告 2

松井正子名誉教授に感謝状を授与

緑窓教育会では、平成20年1月29日（火）松井正子名誉教授（元服飾美術科教授）に清水司会長から感謝状を授与いたしました。

松井先生には「緑育会の活動を支援する」という用途指定で、平成18年、19年の2度にわたり多額のご寄付を頂戴いたしました。本会はそのご厚意に対し感謝状を授与したものです。



ご意見コーナー

緑育会通信に対して会員よりご意見をいただきました。52年間の教員経験を踏まえ、母校に対する熱い思いをお届け下さいましたので、その要旨を掲載いたします。

元兵庫大学 教員 大村芳寿枝
（昭和22年卒 専・被服）



緑育会通信第2号をいただき、改めて創刊号を読み直し、始めて母校の力強い企画に共感しました。日本の教育の現状は、特に“国に国政あり、家に家政あり”と学んできた私には無念でたまりません。私の52年間の教員経験から、通信の中から感じたところを2点にまとめてみました。

第1点は、第2号の片岡学長先生の冒頭の辞です。女性中核教員養成に向けた研修プログラムの開発が、どのような視野で、どのように研究され、構築されて研修が進められるかということです。プログラムの開発は教育委員会等と緊密に連携して進められるとあります。正にその通りです。戦後、GHQがレイマンコントロール策を打ち出して生まれたのが教育委員会だと認識しています。社会のニーズに応えるためにはどうしても連携が必要です。しかし、今の教育委員会は誕生した時の精神からズレているように思えるのです。このプログラムに教育委員会を動かすといわれていることに共感し、感激しました。現場の教師、経験者がよりよい働きかけをすること

で教育委員会の本当の力が発揮されると思いますし、教師はその地域の風土をしっかりと知って教壇に立つのが本当ただと思うのです。

第2点は、平成18年度卒業生進路状況です。表をみて、とにかく全国から優秀な応募者、入学希望者を増やすことだと思います。もちろんあらゆる分析はなされていると思いますが、家政大学の魅力をどこにおいたらよいか、を考えることが大切です。人間の誕生から終焉まで、この不思議な神秘的でさえある生きものの一生を（生き方に重点を置いて）解明する大学にしたらどうかと考え、次のような提案をします。

- ①助産婦を養成するような科目がつかれないものか。（性教育の問題、妊婦の問題を取り扱う）
 - ② 附属小学校の設立
 - ③ 老人大学の設立（入学試験・卒業証書あり）
- 緑育会の件は、その動きが具体化され、本格的に動き出したら、今迷走している家庭科教育にとって是一条の光です。五大学の動きに期待しています。
（文責 青木）

 緑育会通信第3号、緑育会に関するご質問・ご意見・ご感想・ご要望等を、お待ちしております。
下記の緑育会事務局（プロジェクト推進室）までお寄せ下さい。 

緑窓教育会（緑育会）ホームページをご覧ください。

- ①東京家政大学のホームページを開きます。
（<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>）
- ②「卒業生の方」をクリックします。
- ③「緑窓教育会（緑育会）」をクリックします。

または、
<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/ryokuiku/>
と直接アドレスを入力します。

緑育会事務局（東京家政大学 プロジェクト推進室）

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
TEL: 03(3961)0084 FAX: 03(3962)7135
E-mail: ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp